

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)  
事業期間を通じた評価

国立大学法人東京医科歯科大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。  
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

S	当初の構想を上回る取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。
---	---

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の  
事業期間を通じた評価

国立大学法人 東京医科歯科大学

(検討会の所見)

- これまでの活動を高く評価したい。大学の持つデータベースを最大限有効に活かした大学の将来像を定め、それに向けた取り組みをさらに加速していくことを期待したい。
- 「トータル・ヘルスケア」の実現に向けて、学内の IR データに基づく透明な運営ができていいる。大学改革においてはともすれば看過されがちな「スリム化」にもしっかりと踏み込むことができている。だからこそ経営資源の重点的な再配分が可能になっていると高く評価できる。そうした組織運営がさらに学内の教職員のモラルやインセンティブを高め、さらなる成果の向上につながるという好循環が機能している。第4期中期目標期間以降も TMDU のさらなる発展とその成果が国内外に還元されることを期待する。
- 卓越大学院生制度や YISC 体制の設置を一年前倒しで実現し、産学連携も質の高い取り組みを行うなど、経営改革は非常に順調に進んでいる。また、大半の KPI を達成している。
- 全国的な医療データベースの共有に向けた取り組みのリーダー的役割を担い、世界的拠点形成に向けた取り組みが順調に進捗している。  
我が国における医歯科学研究の低迷が言われる中で、保有する一元管理されたビッグデータを活用した多様な研究者育成を含む改革構想が当該データに基づいて練られており、説得力ある取り組みとなっている。
- トータル・ヘルスケアの実現を目指して、コロナ禍で見極めた大学機能の本質に立ち戻り改革を行おうとする構想であり、各種のデータの組織的な収集とそれらの分析、IRも活用して知と人材を集積して産学連携マネジメントにより投資を呼び込む持続可能な循環型経営モデルを確立しようとする取り組みであるが、様々な観点から積極的に組織的な改革が進められ、既に、多くの際立った成果を上げている。KPI についても、コロナ禍で方向の変更を余儀なくされた指標などもあるが、殆どの指標について達成している。  
改革にデータ駆動型ともいうべき明確な方針もあるが、M&D データ科学センターに関して、数理・データサイエンスに加えて、医師の診療をアシストする高度な AI や AI 創薬についても専門家を配し、また、東工大との連携によって取り組んでいる。今後の一層の先導的成果を期待したい。

次項あり

- トータル・ヘルスケアを目指した大学経営の進捗を素直に評価したい。一方で、単科大学としての成長には限界があると思われ、そのことは学長も強く認識されていることも承知している。我が国では、ヘルスケア経済のポテンシャルが過小評価されており、とりわけバイオエコノミーの世界的な成長が大学発スタートアップによる新産業創出という点から大きな可能性を持っていることを考慮するに、東京というグローバルにも魅力的な地域での医科学系研究大学の長期ビジョンが極めて重要である。